

〔「おめでたい美術」展によせて〕

当館蔵「十五鬼神図巻」の図像源泉

—西域由来の図像をめぐって—

当館に所蔵される「十五鬼神図巻」(図1・以下、文華館本と略称)は、十五の鬼と、それぞれの鬼にとりつかれて様々な症状を見せる子供を描いた白描図像です。巻末には、八部衆の一人である乾闥婆が三叉戟を手に、岩座の上で左足を踏み下げた姿で座っています。十五の鬼は『護諸童子陀羅尼經』(以下、童子經と略称)に説かれるものであり、本作品は紙中に高山寺印の押された經典とともに所蔵されます。当初から一具のものではないようですが、ともに鎌倉時代に制作されたものと見られます。文華館本に描かれた乾闥婆、鬼、童子を一図に構成して絵画化したものが「童子經曼荼羅」であり、童子の肉体的、精神的災いを取り除く「童子經法」の本尊として描かれました。智積院やMOA美術館に所蔵される作例に代表されます。苦しむ子供を救いたいという切なる願いがこめられています。

文華館本及びともに伝来した『童子經』については、河村知行氏の精緻な先行研究があります(『高山寺旧蔵護諸童子經と十五鬼神図像』『大和文華』95号、1996年)。それによると、『童子經』は法鼓台、文華館本は方便智院という高山寺経蔵の伝来であり、白描図像は同院を開いた定真の筆写になることが明らかにされました。鎌倉時代に遡る十五鬼神図像は他になく、高山寺伝来という点でも本作品は重要です。また、河村氏は文華館本の図像源泉として、大英博物館に所蔵される「護諸童子符」について言及しています(以下、大英本と略称)。大英本

は敦煌莫高窟から出土した絵画断片であり、イギリスの東洋学者、オーレル・スタイン(1862—1943)の収集品です。敦煌画研究者として著名な松本榮一氏によって紹介された古くから知られた作品です。

大英本は、縦32cm横7.5cmの大きさの紙に描かれた獣頭人身の女神像で、童子も一緒に表されます。上部には漢字とコタン文字が併記され、それぞれの女神についての記述がなされています。現状、三枚の断簡が所蔵されており、それぞれ表裏に一尊ずつ女神が描かれます(図2-①～⑥)。すなわち、①磨藝遮／牛頭(足下の台上に童子)②冥伽羅遮／鹿頭(童子を抱く)③磨難寧／猫頭(足下に童子)④石俱寧／鳥頭(足下に童子)⑤吉伽半里／鷄頭(足下に童子)⑥磨伽畔泥／ミズク頭(童子の手足を持つ)です。上部に記された漢文からは、母親が夢に見た動物によってそれぞれの女神の名称が判明すること、子供に取り憑いた結果現れる症状が分かります。大英本はその形状から、子供を病魔から護るための護符であったと推定されています。

大英本に描かれた女神と『童子經』で対応する鬼神を挙げると、

①弥伽迦／牛(症状:目が回る)②弥伽王／獅子(嘔吐)③曼多難提／猫(眠りながら笑い泣く)④舍究尼／鳥(乳を飲まない)⑤捷吒波泥／鷄(のどが詰まって喋られない)⑥目佉曼茶／ミズク(熱病と下痢)となり、原音に当てた漢字の違いはありますが、弥伽王を除いて一致します。すなわち、弥伽王のみが、象徴する動物を鹿とするのか獅子とするのかという違いがありますが、先学の指摘の通り、文華館本の図像源泉は大英本に求められます。ただし、大英本は獣頭人身であり、動物の姿のみで鬼神を表す文華館本とは異なります。日本に請来されるまでの過程で変化したと思われるが、中原地域の作例は現存しないため、手がかりを得ることは困難です。大英本の制作年代について松本氏は唐時代と見ており、像の形や表現様式はコタン地方の絵画に見られる特色であると指摘しています。

このように、西域由来の図像が日本に請来された作例としても文華館本は重要です。同様の図像に「伽邪城毘沙門天図像」(個人蔵)(図3)が挙げられます。平安時代末から鎌倉時代にかけて活躍した図像家、玄証の落款が記されており、こちらも高山寺伝来の白描図像です。唐時代の制作と見られる敦煌画「行道天王図」(大英博物館蔵)(図4)と、歩む方向は反対ですが酷似しています。

院政期以降、数多くの図像集が編纂されますが、その中には「唐本」と総称される請来図像が含まれます。文華館本や「伽邪城毘沙門天図像」も宋から請来された図像に依拠したもののようですが、敦煌画に遺された図像が、宋代仏画にも継承されていたことが推測されます。「唐本」図像は同時期の中原地域で描かれた仏画を考える上で重要な手がかりを与えてくれます。そして、高山寺に集積された図像の多様さには改めて驚かされます。西域に直接繋がる図像が意外にも多く請来されていた可能性があります。高山寺、醍醐寺、勧修寺、仁和寺といった寺院が図像の集積地として、最先端の情報が集まる重要な場であったことも窺えます。(古川 攝一)

※図2・4は松本榮一『敦煌画の研究』東方文化学院東京研究所、1937年、図4は特別展『清雅なる仏画』図録、2012年より複写致しました。



図 4



図 3



図 1



図 2-①

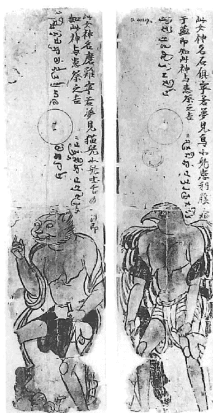


図 2-②



図 2-③

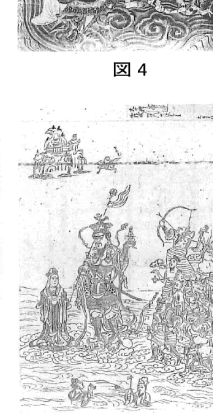


図 2-④



図 2-⑤



図 2-⑥

季刊 美のたより No.189

平成27年1月9日

発行 大和文華館